

中学校 美術科の指導におけるICTの活用

県教育庁義務教育課

ここに掲載した内容は、文部科学省 HP「各教科の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料」から抜粋したものです。詳しくは、下記文部科学省 HP をご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

中学校美術科の指導におけるICTの活用例

「A 表現」タブレット型のコンピュータを活用したアニメーションの制作（第1学年）



イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。

【コンピュータ】

コンピュータの特長は、何度でもやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換え、色彩換えなど、構想の場面での様々な試しができたりすることにある。そのよさに気付かせるようにするとともに、それを生かした楽しく独創的な表現をさせることが大切である。

本活用例は、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」（「A 表現」(1)ア、(2)、〔共通事項〕）においてカメラ機能を搭載した、タブレット型のコンピュータを使ってコマ撮りのアニメーションを制作する実践である。ここでは、単に描いたものだけを用いてアニメーションを制作するのではなく、手の写真や音声を取り入れるなど、映像メディア機器の特長を効果的に活用して、表現の活動を行っている。

このように美術の表現の可能性を広げるために、効果的に写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図ることが大切である。

中学校美術科の指導におけるICTの活用例

タブレット型のコンピュータを活用した鑑賞の学習活動（第1学年）



鑑賞作品については、実物と直接向かい合い、作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えさせることが理想であるが、それができない場合は、大きさや材質感など実物に近い複製、作品の特徴がよく表されている印刷物、ビデオ、コンピュータなどを使い、効果的に鑑賞指導を進めることが必要である。

このようにして鑑賞の学習のねらいを明確にし、各学年の発達の特徴に考慮してア及びイの各内容に基づいた授業づくりが求められる。

本活用例は、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞」（「B 鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕）においてタブレット型のコンピュータを使って西洋美術の作品を鑑賞する実践である。ここでは、コンピュータに保存されている画像を用いて、同じ作家の作品を複数鑑賞したり、画面を指で操作して見たい部分を拡大して表示し鑑賞したりするなど、映像メディア機器の特長を効果的に活用して、鑑賞の活動を行っている。

鑑賞の学習におけるICT機器の活用では、鑑賞する作品や作者について、情報通信ネットワークを活用して調べたり、美術館、博物館等のWebページを閲覧したりするなど生徒の見方や感じ方を深められるような活用も考えられる。

